

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		精神保健推進事業(こころの相談)						予算事業名		保健推進事務経費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	精神保健及び精神保健福祉に関する法律				
				04	01	03	0501	経常経費	根拠法令				
総合計画体系		1ともに支えあい，安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)						事業の区分		主要事業			
		1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実（健康・医療）								重点事業			
		①健康づくりの推進						担当課係等		健康増進センター			
		3健康な心づくりの支援								健康増進係			
事業期間		継続（平成10年度～ 年度）											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
心に悩みを持つ者やその家族が，気軽に専門医に相談でき，心の健康の回復と保持増進を図ることができる。								こころの健康を保つことの重要性が見直されるなか，当市では平成10年度より実施している。また，近隣市町村でも同様の相談事業を実施している。					
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】					
精神科専門医師による個別相談（月に1回。1回につき3件まで）								心の健康，悩みなど相談したい市民（その家族）					
								【事業をとりまく環境の変化】					
								精神科の医療面では，市内において精神科のクリニックや病院がないため，近隣市町村の医療機関を利用しているのが現状である。気軽に精神面の相談ができる場として，重要である。社会福祉課や地域包括支援センターから紹介を受けるケースも増えてきており，関係機関との連携強化が必要である。					
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】					
精神科専門医師による個別相談（月に1回。1回につき3件まで）				精神科専門医師による個別相談（月に1回。1回につき3件まで）				精神科専門医師による個別相談（月に1回。1回につき3件まで）					

■事業費

		H29年度	H30年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	171	228			
歳入計（千円）		171	228			
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）			
	01 報酬	171	228			
歳出計（千円）（A）		171	228			
伸び率（％）			33.33			
備考	総合計画50ページ 予算書98ページ					

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	こころの相談実施回数	回	目標	12.00	12.00	12.00
	精神科医による精神保健に関する健康相談の年間実施回数		実績	9.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	こころの相談実施者実人員	人	目標	36.00	36.00	36.00
	こころの相談の年間利用者実人員		実績	14.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	市内に精神科の医療機関がないため、こころの不調時に気軽に、身近な場所で精神科医に相談できる場として必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	一般市民を対象とし、より身近に専門医の相談が利用できる場所として市が実施することは妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	相談内容に対して十分な対応を行うには、現在の対応方法が妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	当事業の目的達成のための謝礼や人的配置などは現状の実施方法が効率的である。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	関係機関からの紹介や市報、健康カレンダー、お知らせ版などにより、広く事業の周知を実施しており、希望者に対して相談対応ができています。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	相談利用者の満足度を把握してはいませんが、相談後の対象者の感想は「対応方法が分かった」「受診してみます」など、不安が解消された言葉が出ています。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	毎月3件の枠ということもあり、相談実績に増加はないが、希望者の相談に応じることが出来ています。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
定期的にお知らせ版などに掲載することで、以前に比べて市民の認知度は高まりつつあるが、ストレスの多い社会の中で、こころの健康について気軽に相談できる場として、今後とも相談事業を広く浸透させていく必要性がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
市民にさらに浸透するよう、お知らせ版や広報紙で定期的に事業の案内を行っていくとともに、今後とも精神疾患や認知症などの支援にあたる社会福祉課や介護福祉課などと連携して、相談が必要なケースを早期に支援へつないでいく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 心に悩みを持つ者やその家族が相談できる場を設定し、相談者に適切に対応できる体制を継続することで、市民の健康増進を図ることが必要である。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。